

「財部小学校の俵踊り伝承活動の取組」

1 学校名

曾於市立財部小学校

2 学年・人数

5・6年生（計95人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年9月22日～30日（計4回） 合同体育（体育館，運動場）

令和3年10月1日（金） リハーサル（運動場）

(2) 発表の日時・場所

令和3年10月2日（土） 財部小学校運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事，伝統工芸品について

(1) 名称

川内集落の「俵踊り」（かわちしゅうらくの「たわらおどり」）

(2) 由来

元々俵踊りは、江戸時代に農家二才衆の心身強化，団結，親和を図るとともに，豊作を神に奉納したことから始まったといわれている。川内の俵踊りは，都城市周辺で踊られていた豊作を祝う舞で，戦後，隣接する川内集落に伝えられたという。

(3) 構成等

小さな米俵を持って「はよいさ」の掛け声を上げ，唄や太鼓，三味線に合わせて威勢よく踊る。運動会で発表する際は，踊る人数や観客席の配置などに合わせ，隊形移動等の工夫をしている。

5 保存会や地域との連携の具体

6年担任が，保存会の指導者（会長）に直接連絡を取り，日程を調整する。リハーサルを除く練習は，会長1人で動きや声の出し方について指導をするが，リハーサルからは，保存会の方々4人が加わり，唄や太鼓，三味線に合わせた練習を行い，本番に臨む。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

令和元年度までは，5年生の総合的な学習「曾於市に伝わる伝統」の学習の一部と体育の表現運動を関連付けて取り組んでいた。そのため，5年生は，体育の表現運動として学習するだけではなく，曾於市の伝統芸能への理解を深めた上で踊りを習得し，運動会で発表することができた。コロナ禍で，種目数が減少した令和2年度の運動会からは，6年生も加わり，運動会で発表している。5年生の教育課程への位置付けはこれまで通りであるが，練習では前年度に取り組んだ6年生が5年生の手本となり，教える姿が見られるようになった。そのため，引き継がれる伝統という意識も高まっている。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）

＜ 運動会当日の発表 ＞



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【5年生児童】

姿勢を低く保つところが難しかったけど、みんなと一緒に踊れて楽しかった。また、多くの拍手をもらい頑張ってたよかったですと感じた。

【教職員】

地域に残る伝統芸能のすばらしさを体感するよい機会だと感じている。コロナ禍で発表の場は減ったが、財部小学校の伝統として今後も引き継いで、後輩たちに伝えてほしい。

【保存会から】

昨年踊った6年生も参加するので、教えやすかった。伝統芸能があるのは、地域の誇りなので、これからも引き継いでいってほしい。

【地域の方から】

運動会で子供たちの元気な踊りを見られるのがとてもうれしいし、自分たちも元気をもらえる。よき伝統としてほしい。